

<発言者>

<項目・内容>

委員長

1 委員長挨拶

「委員長になり初めての定例会である。新しく錦田委員を迎え、これから3人で協力して取り組んでいこうと思うのでよろしく願いする。先日署長会議に出席し、改めて県警察の課題の再認識をすることができた。また、危機管理に関する講演を興味深く聞かせてもらったが、その中で『憂いなければ備えなし』という言葉があり、教員時代、手探りで防災教育をしていた時の苦労を思い出した。日頃から想定外のことが起きるかも知れないという意識を持ち、準備しておく必要があると改めて認識することができた。」旨の発言があった。

警察本部

2 報告

(1) 島根県警察における警戒の空白を生じさせないための組織運営

「社会情勢等の変化及びこれに伴う治安情勢等の変化に的確に対処するため、推進体制を構築し、日々生起する治安事象への対応に当たって警戒の空白が生じていないか、組織運営の合理性、効率性の向上や業務の高度化に取り組むべき点はないか等の観点から幅広く業務の点検を行った上で、各種取組を推進するものである。当面取り組むべき組織運営上の重点の一つ目は、人的リソースの重点化等により体制を抜本的に強化して推進すべき事項であり、サイバー空間における対処能力の強化、匿名・流動型犯罪グループに対する戦略的な取締りの強化、特殊詐欺に係る広域的な捜査連携の強化、経済安全保障の確保その他の対日有害活動対策の強化、要人に対する警護等の強化、ローン・オフエンダー等に対する対策の強化、自転車その他の小型モビリティ対策の強化の7項目である。二つ目は組織内の人的リソースを一層有効に活用するために業務の効率化・合理化のための見直しを行うべき事項であり、情勢に応じた警察の活動拠点や所属の在り方等の見直しを検討すべき事項として、警察署の業務見直し、交番、駐在所等の在り方を見直し、本部執行隊等の在り方を見直しが挙げられる。また、限られた人的リソースの有効活用の観点から業務の実施方法等を見直しを検討すべき事項として、メリハリのある地域警察活動の推進や、庶務・会計業務の集約等が挙げられる。その他、広域的に行われる犯罪等に効率的に対処するための所属を超えた連携の強化、先端技術の活用等による警察活動の更なる

高度化、働きやすい職場環境等の形成等が挙げられる。推進体制は、既存の委員会を発展的に改組し、警戒の空白を生じさせないための警察力最適化推進委員会を設置する。」旨の説明があった。

委員 [意見]「業務の合理化、効率化という視点は大事だが、島根の地域性を念頭に置いて様々な方策を検討してほしい。」

委員 [意見]「良い機会なので、これを機にそれぞれの立場でしっかりと検討をお願いします。また、中には非効率でもやらないといけない業務もあるので、こうした業務やそれに従事する職員にも光を当ててほしい。」

委員 [意見]「警察組織はトップダウンの印象が強いが、現場の警察官の考えをボトムアップできるような仕組みも必要である。個々の職員が力を発揮できるようにしてほしい。島根県警らしい取組を期待している。」

(2) 少年補導職員の専門的知識と活用

警察本部 「少年補導職員は、少年警察の専門家として児童心理に関する高度な専門的知識やカウンセリング技能を身に付け、これを業務に活用することで、個々の少年の特性に応じた的確な対応を推進している。専門的知識として、教員免許、公認心理師、社会福祉士などの資格を保有している。研修の受講として、司法面接基礎研修、司法面接トレーナーによる研修、警察庁主催の専科入校等を行っている。また、少年の立ち直り支援活動として継続的な関わりによる再非行や問題行動の防止、児童を被害者とする事案では代表者として聴取などを行っている。課題としては、心理学、教育学又は社会学を履修した者など適格性を有する者を採用することや、資格取得や資格維持、更新のためにかかる諸費用について個人の負担が大きいことが挙げられる。」旨の説明があった。

委員 [意見]「僧侶、神父などの宗教者が被災地や福祉施設などで心のケアを行う臨床宗教師という制度もあるので、こうした取組なども参考としてほしい。」

委員 [意見]「コミュニケーションに長けるなど適性のある人材を見いだし育てていく取組も必要である。資格取得のための経費の公費負担なども必要であれば検討してほしい。」

委員 [意見]「子供たちは、自分のことを思ってくれる大人を見抜く力がある。有資格者をリーダーとして、適性ある人の良さを伸ばしていくような視点での取組もお願いします。」

(3) 島根県警察広報犬の任命式と初出動

警察本部 「令和5年7月11日に島根県警察広報犬の任命式を行った。犬

名はシャイン オブ フォン ヴェリテ号で呼称はガイアである。犬種はシェパードで、年齢は9歳で雄、平成27年1月に配置された。当県の第14代直轄警察犬であり、本年6月までの8年間で、延べ366回出動した。逃走被疑者の遺留品発見、所在不明者の生存発見等の功績を挙げている。任命式では、警察本部長が任命書とメダルを授与し、報道関係者の取材も多数あった。今後の活動内容は、警察活動に対する県民の理解と協力を得るため、各種行事で広報活動に従事するとともに、警察犬普及のための活動を実施予定である。初出動は、令和5年7月12日、安来市伯太町井尻公民館において、地域住民を対象とした防犯教室の開催に併せ、警察犬の物品捜索活動等の展示訓練を披露した。小学生を含む住民約30人が防犯教室に参加し、展示訓練は好評であり、防犯教室の理解促進に貢献した。」旨の報告があった。

委員 [意見]「堅いイメージのある警察活動を県民に理解してもらうには大変良い広報戦略である。より親しみやすい呼称を付けることも効果的である。」

委員 [意見]「警察犬として活躍後、広報犬として活躍するのは良い取組である。様々な場面での活躍を期待している。」

委員 [意見]「犬は人間の何倍もの広報力がある。長生きして活躍してほしい。」

4 本部長総括

本部長 「本日から金崎委員長を始め新しい公安委員会の体制で、また1年間御指導をよろしく願います。本日の報告事項に関し、警戒の空白を生じさせないための組織運営について、本県は東西に長く人口が東部に偏っており、本部や署同士の応援に時間がかかる現状の中で、現場の執行力を下げずにいかに業務の合理化を図れるかということを中心に置きながら検討していく。それから、警察には、少年補導職員や警察犬の指導手のほか科捜研の職員や航空隊のパイロット、整備士等専門的な業務に長く従事している職員もおり、警察の活動は、こうした職員にも支えられていることから、ここにもできるだけ光が当たるよう広報したいと思っている。」旨の発言があった。